



栃木市立大平東小学校
学校だより 第7号
令和7年11月7日
校長 新村 勲



日々の学校の様子や行事予定をホームページに掲載しています。ご覧ください。



【学校の教育目標】かしこく なかよく たくましく

本を手に取る子に

読書の秋ということで、このテーマにしました。

表題を「本好きの子に」とか「読書の習慣化」などにしたかったのですが、私には無理なようです。小学生時代の私は、読書が嫌いな少年でした。とにかく文字を見ることが嫌いで、マンガにさえあまり興味を示すことはありませんでした。

外遊びを好み、野球遊び、缶蹴り、かくれんぼ、秘密基地作り、クワガタ取りや魚釣りなど外遊びに夢中でした。読書の世界とは縁遠い世界を飛び跳ねていました。

このような私なので、「本好きの子に」と言うことにはためらいがあり、せめてもの思いで「本を手に取る子に」としたわけです。

本校の子供たちはどうなのか。毎月、学校図書館事務員が子供たち一人一人の貸出冊数の一覧を集計しています。

2024年度の年間貸出冊数一人平均は96冊。

2025年度の4月から10月では一人平均70冊。

文部科学省の調査によると、2020年度の公立学校図書館における一人当たりの年間貸出冊数は、小学校が49冊、中学校が9冊、高校が3冊です。

この数字から見ると、本校の子供たちは、全国平均以上に学校で本を借りて、「本を手に取っている」ことになります。

さて、文部科学省は「生涯にわたって学び続ける力」を子供たちに育む必要があると言います（大人でも難しいことですが）。

問題は、このような力をどうやって付けていくのかです。

必要なことをたった一つだけ挙げよと、あえて一つに限定して考えてみます。

人によって、いろいろな意見があるでしょうが、たった一つだけ挙げよと言われれば、私は、

子供に読書の習慣を付ける

ことだと考えています。

国民教育の父と言われる森信三先生は、

「学校教育の成果は、生徒たちが、卒業後世の中に出てから、いったいどの程度、自分で本を読みながら、独力で自分の道を切り拓いてゆけるかどうかという点にあるといつてもよいと思うのです。」
と言われます。

小学生時代に読書が嫌いだった私ですが、大平東小の子供たちには読書の習慣が身に付くとよいなあと強く思っています。



朝の会の前や休み時間に、一人で読書をする子や集まって本を見ている子



教育相談の時間に読書をして待つ6年生



机の横には図書袋がかかっていていつでも本が手にできる



図書館で本を借りる子供たち

親から3000万円の遺産相続をしてもらったのに匹敵する

ある著名な教育者は、絵本の読み聞かせについて、次のように述べています。

「読み聞かせをしてもらっていて本が好きな子は、親から3000万円の遺産相続をしてもらったのに匹敵する。」

数十年前の言葉なので、今ではさらに金額も上がっているでしょうか。金額の問題ではなく、「寝る前の読み聞かせは親が子に贈る最高のプレゼント」ということなのでしょう。

我が家はどうだったのか。子供と一緒に布団に入り、絵本の読み聞かせをすることを私と妻で分担して行っていました。

読み聞かせは、小学校に入ってからも続けました。

私の方は仕事で疲れて、途中で「うつらうつら」することがあります。

子供は「起きて」と、私をゆさぶるのです。

時には、私を起こすのをあきらめて、自分で読んでいるのです。

本好きとまではいきませんが、仕事に就いた今でも図書館で本を借りて読んでいるようなので、多少は効果があったのかなと思っています。

このように書くと読み聞かせをしてこなかった保護者の方はズシンとこたえるかもしれません、心配いりません。

私も親から読み聞かせをしてもらった記憶がありません。そして、読書が嫌いな少年でしたが、今では毎日欠かさず読書をしています。きっかけがあれば読むようになると思うのです。

「おひさまクラブ」の方々による朝の読み聞かせ活動

朝の読み聞かせボランティア「おひさまクラブ」の方々による読み聞かせ活動を定期的に行っています。

子供たちは、すっかりお話の世界に引き込まれています。

読み聞かせは子供たちが本に興味をもつきつかけになります。

また、読み聞かせには子供の想像力を刺激したり、聞く力を身に付けたりする効果があると言われています。



「おひさまクラブ」の皆さん、本校の子供たちのために今後もどうぞよろしくお願ひします。

◆昔の教え子から書き込みがありましたので、ご紹介いたします。(原文のママ)

東小の保護者や関係者ではありませんが、お礼をお伝えしたくメッセージを送らせて頂きます。私は30年近く前に羽川西小学校で新村先生に担任をして頂いていた者です。当時は4年生で、旧姓は〇〇〇〇と申します。当時は新村先生にお子さんが生まれた事がクラスのビッグニュースでしたね。その節は大変お世話になりました。本題に移らせて頂きますが、私は現在38歳になり相模原市で生活をしています。大学生の息子、小学4年生の息子、来年小学校に入学する娘と3人の子供がいます。小4の息子の事ですが、息子には学習障害とADHDの発達障害があります。文字を書く事がとにかく苦手で、漢字を覚える事が大の苦手です。親としては何としてでも書けるようになって欲しい一心で、ネットなどで色々と調べていました。するとたどり着いたのは東小のホームページ。昨年の第2号の学校だよりでした。最初から鉛筆は持たせずなぞり書きや指書き…と載っていました。今年7月頃にそれを読んでから、息子に実践させました。すると…今までなら覚えてもその場限りで忘れててしまっていたのに、指書きから覚え始めた漢字は3ヶ月経った今でも覚えてくれています！！それに感動をし、東小の学校だよりを片っ端から読ませて頂きました。筆算は定規を使う…なども現在活用させて頂いています。こんな有力情報を発信して下さっているのはどんな先生なんだろう？と見てみると見覚えのあるお名前が…！数多くいる教え子の1人ですし、あまり目立たない子供だったので覚えて下さっているか分かりませんが、一言お礼を申し上げたくメッセージを送らせて頂きました。ありがとうございます。

(〇〇さんが小学生だったときのことを思い出しながら返信しました。内容は割愛いたします。)

私からの一方向ではなく、双方向になればよいと思っております。「学校だより」やホームページ等へのご感想・ご意見をお寄せいただけます。

